



CONTENTS

- 1-トピックス 論文誌編集委員会の紹介
- 2-私の提言 医療界の品質管理
- 2-ルポルタージュ JSQC規格「日常管理の指針」講習会ルポ
- 3-ルポルタージュ 第429回事業所見学会ルポ/第148回講演会ルポ
- 4-行事案内/事務局からのお知らせ/5月の入会者紹介/中部支部FAX番号変更

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

論文誌編集委員会の紹介

論文誌編集委員会 委員長 山本 渉

論文誌編集委員会は品質誌に関わる編集組織の一つで、投稿論文を取り扱います。投稿論文の受領から始まり、査読や改訂など著者と審査員間のコミュニケーション、そして掲載などの判定までの一連のプロセスが、論文誌の編集です。論文投稿、学位審査、論文審査などの経験のある産学の学会員を中心に20名前後の委員で構成され、8月を除いて毎月、開催されている常設の委員会です。

2名以上の匿名の審査員による査読に基づいて審査が行われる区分は(1)報文、(2)技術ノート、(3)調査研究論文、(4)応用研究論文、(5)投稿論説、(6)研究速報論文の6つです。これらの審査は投稿論文審査内規(学会規則207)に基づきます。宮川雅巳先生(東京工業大)が1996年に品質誌に書かれた「投稿論文のあり方と書き方・直し方」にも紹介されているように、当初の投稿区分は報文のみでした。数回の変更を経ており、最新の投稿区分は、黒木学先生(横浜国立大)の下で2018年に新設された、研究発表会で発表された内容の投稿を勧める研究速報論文です。

他の3つの投稿区分(7)クオリティレポート、(8)レター、(9)QCサロンは原則として、論文誌編集委員会の委員1名が幹事として審査を担当します。この対応はクオリティレポート、レター及びQCサロン審査基準(学会規則322)に基づきます。同規則に、高度な学術的レベルは要求せず、以下のような基本的事項に合致

する論文を積極的に掲載することを主眼とする、として7つの事項が規則に記されています。

森田浩先生(大阪大)の下で2022年に、エディトリアルマネージャーという投稿・審査システムを導入しました。このシステムは投稿論文を扱うプロセスの大半を電子化するもので、事務局と編集委員会の仕事にも少なからず変更が生じました。それでも、投稿論文の編集プロセスに実質的な変更が生じないように気をつけて運用を開始しています。

ここで査読について紹介します。投稿論文審査内規には、2名の審査員を指名し、論文の専門的・技術的内容について審査を依頼する、と記されています。これを一般に、論文審査または査読と呼びます。投稿論文の著者はその内容の掲載時の責任者、審査員は投稿論文の審査に足る専門知識や技術を有する方をお願いしています。査読はこの両者の間の、文書によるディスカッションです。

著者が論文を投稿し、審査員が審査意見を提出し、編集委員会が判定することまでをディスカッションの1ラウンドと数えると、そのラウンドで掲載に向けた判定が可能か、次のラウンドを開始するために著者に原稿の改訂を依頼するか、あるいはそのラウンドでディスカッションを打ち切ることが望ましいか、などを委員会で検討し、必要な判定を行います。あるラウンドを終えた時点で、採択に向けた前向きな見通しが立たない時などに、掲載不可というお返

事を差し上げることもあります。論文誌編集委員会は合議制ですが、その判定の責任は委員長が負います。

審査員が起草する審査意見には、優しく助言する意見、学術的な議論を持ちかける意見など、様々な意見が並んでいて、初めて受け取るときには戸惑いが生じるかもしれません。論文が解決したと主張する問題に関して、基本的な文献調査や現状調査に不足があり評価できない、とする意見が混じることもあり得ます。それらに対して、著者は自らの責任で対応を選択できます。査読というディスカッションの方法において、よい論文に関わりたいという点で、著者と審査員の価値観が一致して欲しいと編集委員会は願っています。

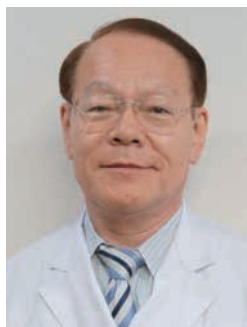
また審査員は、修正が必要な箇所をすべて指摘するとは限りません。指摘事項が多く、逐一挙げるのが困難な場合には、最初の幾つかを指摘して、あとは同様の対応を望むという指摘の仕方もあり得ます。これは学術論文に限らず、業務文書に対するメンター、上司、先輩、また周囲からの助言と同様と考えています。指摘事項のみの対応ではなく、審査員の趣旨を読み取った上での、原稿の修正対応をお願いしたいと考えています。

最後に、論文誌編集委員会は、学会員からの投稿論文の編集を担当します。そして論文誌編集委員会はいつでも、会員の皆様からの論文投稿をお待ちしています。

● 私の提言 ●

医療界の品質管理

総合犬山中央病院 院長 齊藤 雅也



昨年10月に、麻生飯塚病院が医療界では初めてデミング賞を受賞されました。同院が約30年前からTQMに取り組んでこ

られた素晴らしい成果だと思います。

1999年に横浜市大病院事件、都立広尾病院事件が起こって以来、医療安全、医療の質管理が改めて重要視されてきました。私は、2003年に4病院団体が主催する「医療安全管理者養成講習会」に参加し、TQMをマネジメント手法として使っている病院があることを初めて知りました。これは病院運営に極

めて有用と考え、前任の関中央病院にTQMの導入を図り、2005年に品質管理の専門家の助言をいただき、品質管理学会中部支部の下部組織として「中部医療の質管理研究会（CMQM）」をつくり、11医療機関と連携して小カイゼン活動やQCに取り組んできました。2006年3月の第1回関中央病院QC大会では、一応10演題の報告があったのですが、QCストーリーになっていない未熟なものが多く、「忙しい」を連発する医療従事者にはなじめない感がありました。ところがこの第1回QC大会での優勝チームが、2006年6月にある地方新聞の夕刊の一面に「病院も改善」という見出しで取り上げられ、この記事がスタッフのモチベーションを上

げ、やらされQCではなく、各部署で自ら考え自ら実装する活動が増えていきました。全国に目を向けると「医療のTQM推進協議会」があり、全国的にはTQMに取り組んでいる病院が150程度あることを知りました。

2010年にCMQMはLean Managementに取り組んでいるアメリカの病院の視察ツアーを企画しました。4つの病院と、IHI(Institute of Healthcare Improvement)を視察できたことは幸運でした。アメリカには医療の改善活動を推し進める研究所があることにある種の衝撃を受けましたが、JSQCには医療の質・安全部会があります。医療は、高度複雑化したプロセスが増え、高齢化社会になり患者さんとのコミュニケーションに時間と労力を要する業界です。産業界の品質管理手法を学び、麻生飯塚病院の活動を参考にしながら、やはり各病院が自院の資源(人・物・金)を考慮した創意工夫・改善活動を進めていくことが益々重要となっていくでしょう。

JSQC規格
講習会
ルポ「日常管理の指針」
—日常管理の本質を学ぶ—

JSQC規格「日常管理の指針」講習会が4月17日(月)にオンラインで開催された。本規格原案作成委員会委員の古谷健夫氏を講師に迎え、参加者は20名であった。日常管理の悩み事を持つ企業人にとって、興味深い講習会であった。日常管理とは日常業務の目的を効率的に達成するために現場が行う行為であり、かつ日常的に実施されなければならない分掌業務であるということである。日常管理は定型業務の多い現場だけでなく、非定型業務と考えられるスタッフや営業、などすべての職種に必要な活動であるということである。

講義では古谷講師の実務家ならではの語りで言葉の裏にある意味、目的について学びを深めることができた。日常管理は維持と向上ではなく、維持向上は1つであるというお話は深みのあるものであった。日常管理の進め方として、SDCAサイクルを回す際、業務をプロセスフローで明確にし、分析していくとお聞き

し、具体的な事例から方針管理との違いについても、わかりやすく説明された。教育と訓練については、プロセスの標準化と、上流工程での異常の検出が大切であること、異常を効果的に検出できる項目、役に立つ管理項目を作ることが必要だということが理解できた。また、品質意識を高めるためには、「異常を見つけることは良いことである」という文化を作ることと知り、報告しやすい雰囲気を醸成することは、職場で心理的安全性を保つことにもつながり、ひいては品質不正の防止に繋がると感じた。最後に異常の根本原因の追究として原因追及フローをご紹介いただいた。

質疑応答では、講師から、個別性を超えた俯瞰的な視点で捉え、その抽象的な中に管理項目を設定してみてもどうか。また品質管理は、身近なところから取り組むとよいというアドバイスをいただいた。また、ISOの受審が表層的な目的になっている危険性を示唆いただき、SDCAの視点での日常活動の状態を正しく測定することにより、絶えざる維持向上が品質管理の基盤であると強く感じられる有意義な講習会であった。

廣野 元久 (株)リコー

第429回 事業所見学会 ルポ

航空自衛隊 饗庭野分屯基地

2023年4月25日(金)に滋賀県の航空自衛隊饗庭野分屯基地で「航空自衛隊饗庭野分屯基地の改善活動の取り組み」をテーマに開催され、29名が参加した。饗庭野分屯基地には中部高射群第12高射隊が所在し、敵航空機や弾道ミサイル等の空の脅威を地上から迎撃する地对空誘導システム「ペトリオット」を運用している。

航空自衛隊では、昭和50年代後半に第2航空団の整備部門においてQCサークル活動が導入され、以後全国の部隊に普及した。饗庭野分屯基地のQCサークル「ホットマン+」は第13回事務・販売・サービス（含む医療・福祉）部門全日本選抜QCサークル大会（小集団改善活動）に近畿支部代表として出場し、金賞を受賞している。

今回の事業所見学会では、航空自衛隊の概要や饗庭野分屯基地での隊務運営状況の説明、QCサークル活動の事例紹介を受け、そしてペトリオットミサイルシ

ステムの発射機を見学した。

QCサークル活動では、民間企業とはまた異なり、資金面や改善内容等にも制約のある中で、工夫を行いながら活発に活動し、成果を出していることが発表により参加者に深く伝わった。「隊員が困っている事を改善する」ということに焦点を当て、「やりがい」と「内務班生活」についてそれぞれ対策を実施し、退職者を減らすことに成功しているのには大変感心した。航空自衛隊という大きな組織の中で、ボトムアップであるからこそ可能な、きめ細やかで、実効性のある対策となったのではないかと思う。参加者からは、QCサークル活動について「職場の人から『ありがとう』といってもらえることが最高の成果である」「標準化して永続的に使用しているのが素晴らしい」といった多数の好評価の声があがり、質問も多く交わされ、大変有意義な見学会であった。

最後に、緊張高まる国際情勢の中、日々の厳しい訓練や業務等、ご多忙の折にもかかわらず、饗庭野分屯基地の皆さまには丁寧なご説明をいただきましたこと、厚くお礼申し上げます。

新田 真理奈（東洋合成工業(株)）

第148回 講演会 ルポ

再発防止の質向上の ための視点と進め方

2023年5月12日(金)に第148回（中部支部第62回）講演会がオンラインで開催された。講演者はSQCテクノサポート代表の小杉敬彦氏で、トヨタ自動車(株)でSQC、自工程完結、再発防止の推進に長年尽力されたご経験から上記テーマでご講演いただき、参加者は67名であった。

事故・災害が発生した際の再発防止策には「注意確認を徹底する」「管理体制を強化する」など、人の意識や記憶に頼るものが挙げられることが多い。しかしそのような対策では継続性や有効性に不安が残ることから、真因を追求して本質を捉えた再発防止策を立案するための手順・考え方が重要となる。全体を見える化し、問題を発生・流出させた部署と仕事を洗い出す「振り返り」、仕事を詳細なプロセスに分解して問題を特定する「プロセス解析」、なぜなぜ分析などを用いて仕事の進め方を深掘りする「真因追求」を経て、継

続性や汎用性を備えた再発防止策を立案する手順について説明いただいた。

続いて、こういった考え方を普及・拡大していく推進活動についてのお話があった。初期は社内にて取り組み、負担感を抑えることや早期に各部署で自立して活動できることを目指し、成果を挙げた。続く段階では一部の取引先企業に活動を拡大し、各事業部などの単位で自立的に再発防止が実施可能な状態を目指し、活動が順調なグループでの取り組みをフィードバックするなど活動計画に反映し、活動の質向上を果たした。さらなる段階は現在も推進中で、活動範囲と活動形態をさらに拡大し、調達の仕組み・制度として確立した。また取り組みにおける成功・失敗事例を共有し、推進担当者マニュアルを作成して展開しているとのことであった。

最後に、再発防止の推進においては未来志向で活動することが重要で、失敗した人を追及するのではなく、傾聴して想いや事実を引き出すことで真因追究すべきであると提言をいただいた。製造業に限らず、多くの場面で大変参考になると感じたご講演であった。

石井 成（名古屋工業大学）

行事案内

●第138回QCサロン（関西）

テーマ：【質】を考える人の育成

ゲスト：清水 貴宏 氏（パナソニックエナジー）

日時：2023年8月22日（火）19:00～20:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：https://jsqc.org/138qcsalon/

●第137回クオリティトーク（東日本）

テーマ：知っておきたい最新・機能安全
の考え方と進め方

ゲスト：伊藤 誠 氏（筑波大学）

日時：2023年8月25日（金）13:00～15:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：https://jsqc.org/137qtalk/

●第132回研究発表会（中部）

日時：2023年8月30日（水）13:00～21:00

会場：名古屋工業大学

詳細・申込：https://jsqc.org/132technical-2/

●第150回講演会（中部）

テーマ：飯塚病院のデミング賞受賞に寄せて
—飯塚病院で学んだ品質管理—

日時：2023年9月4日（月）14:00～15:50

会場：オンライン（Zoomウェビナー）

講演者：安藤 廣美 氏（飯塚病院）

詳細・申込：https://jsqc.org/150lecture/

●第133回研究発表会（関西）

日時：2023年9月8日（金）10:00～16:15

会場：関西大学 千里山キャンパス

詳細・申込：https://jsqc.org/133technical/

●第438回事業所見学会（東日本）

テーマ：感性にまつわる品質を考える
～‘音質’編～

日時：2023年9月14日（木）13:30～16:30

見学先：松本記念音楽迎賓館

詳細・申込：https://jsqc.org/438visit/

●第135回クオリティトーク（東日本）

テーマ：MTシステムの探究

ゲスト：永田 靖 氏（JSQC会長/早稲田大学）

日時：2023年9月19日（火）18:00～20:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：https://jsqc.org/135qtalk/

●第437回事業所見学会（関西）

テーマ：パナソニックライティングデバイス
（株）での「新価値創造」の取組み

日時：2023年9月22日（金）13:00～17:00

見学先：パナソニックライティングデバイス

定員：30名

※競合会社様は参加をお断りする場合がございます

詳細・申込：https://jsqc.org/437visit/

●JSQC規格「プロセス保証の指針」講習会

日時：2023年10月5日（木）13:30～17:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

講師：福丸 典芳 氏（福丸マネジメントテクノ）

中部支部事務局 FAX番号変更のお知らせ

中部支部事務局のFAX番号が変更となりましたので、お知らせいたします。

新番号：050-3535-8675

旧番号：052-203-4806

プログラム：

1. JSQC規格「プロセス保証の指針」制定のねらい
2. プロセス保証の役割と構成要素
3. プロセス保証の基本・進め方・ツール(1)
4. プロセス保証の基本・進め方・ツール(2)
5. 全体討論（質疑応答）

詳細・申込：https://jsqc.org/std21-001_2023/

●第53回年次大会（本部）発表募集

日時：2023年11月11日（土）

会場：名古屋工業大学

(1)申込期限

発表申込締切：9月22日（金）

予稿原稿締切：10月19日（木）必着

参加申込締切：11月1日（水）

(2)研究発表・事例発表の申込方法

https://jsqc.org/53annual_cfp/

●第138回クオリティトーク（東日本）

テーマ：モノからコトへの品質保証体系図

ゲスト：細見 純子 氏（中部品質管理協会
/2030年の質価値創造研究会）

日時：2023年11月29日（水）14:00～16:30

会場：オンライン（Zoomミーティング）

詳細・申込：https://jsqc.org/138qtalk/

事務局

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：E-mail：jimukyoku@jsqc.org

中部支部：E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：E-mail：kansai@jsqc.org

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

JSQC規格 Std 11-001 「TQMの指針」(英訳版)

1. 申込方法：下記URLよりお申込みください。

詳細・申込先：<https://jsqc.org/jsqcstd/>

2. 資料代：1冊（A4判33頁：PDF版）会員20ドル、非会員25ドル

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会

三菱UFJ銀行 渋谷支店 普通預金 4313820

資料は入金を確認の上、送付いたします。

2023年5月の入会者紹介

2023年5月22日の理事会において、下記の通り正会員11名、準会員20名の入会が承認されました。

.....
(正会員11名) ○土谷 雅弘（積水化学工業）○紀本 佳苗（パナソニックインダストリー）○臼井 健太（松戸ニッセイエデンの園）○野村 幸史（野村病院）○田嶋 司（EY新日本）○高

橋 優作（明電ケミカル）○舟引 美咲（東京大学）○吉矢 富美子（大雄会）○伊藤 真由子・宮原 未来（リコー）○武藤 寿津子（フジタ）

.....
(準会員20名) ○釜 晋吉郎・福島 悠太・TANG YEUK LAM・天野 正彬・森 那由汰・柴田 理央・藤井 陸・清水 成・磯村 時将・石井 達也・泓 亜由乃・松岡 龍汰・渡邊 真己子・阿部 太一・木村 恵悟・森川

卓哉（早稲田大学）○二村 健心・干場 優愛（名古屋工業大学）○盛 佳韵（慶應義塾大学）○若月 大輝（東京理科大学）

.....
名誉会員：25名
正会員：1652名
準会員：78名
職域会員：50名
賛助会員：156社230口
賛助職域会員：12名
公共会員：15口